

最初の一步

筑波大学附属小学校 五年 富田 麻悠子

A「まゆちゃん、Bがこんなことしてきたの。ひどくない？」
私はよくけんかの仲裁役をしている。その時に、Aだけの話を聞くとBが悪者に見えるが、Bからも話を聞くと、実はAもよくないことをしていたり、Bがそうしてしまったやむをえない事情があったりする。だから、両方の話を聞くことが大切だな、と私は前から思っていた。そして、こうした仲裁を仕事にしている職業があることに気付いた。それは裁判官だ。

裁判官……。それは、裁判所において刑事・民事訴訟のあらゆる判決をくだす仕事である。
私は今年のお正月にNHKの「昔話法廷」を見て、裁判に関わる仕事に興味を持ったと同時に、そのような仕事につきたいと思ひ、調べた中で最も惹かれたのが、「裁判官」だった。

だれかを裁くということは、責任重大だが、周りからの圧力を受けずに、自らの良心に従って判決をくだすということ。それが裁判官になりたいと思つた一番のきっかけだった。

裁判官になるためには知識も必要だが、膨大な仕事にたえるための精神力と体力も必要だ。そして、裁判官に必要な力をそなえたら、裁判官への道のりの第一歩「司法試験」に合格しなくてはならない。そこで、司法試験の合格率の高い法科大学院を調べたところ、京都大学法科大学院が一番だったので、私はそこを目指して頑張りたい。

そのために、まず今までの自分を振り返ってみた。すると、体力がなくて疲れやすいことや、コツコツ頑張ればできる計算や漢字から逃げてしまっていることが分かった。でも、係活動への責任感

ついているなど思うし、毎日勉強する習慣も身につけてきている。

だから、弱い所を強くするために、まずは体力作りのために毎週プールで泳いだり、中学校では運動部に入ろうと思う。また、この夏からさぼりがちだった計算や漢字を毎日していこう。さらに、学校行事の実行委員などにもなることで、責任感をより深めていきたい。加えて、効率的に勉強することを心がけ、幅広い知識も身につけたい。

そして、私は裁判官になってやりたいことがある。それは、日本の裁判官の人数を増やすことだ。実は先進国の中で日本の裁判官の数は非常に少ない。そのせいで、裁判の後回しや長引き、判決ミスなどの困ったことも起きている。だから、私が裁判官になり、この仕事の魅力をみんなに伝えることで、裁判官を目指す人たちの数を増やし、今の状況の改善への最初の一步をふみ出したい。

富田麻悠子のライフプラン

将来なにになりたいか？ **裁判官**
その理由：**①日本の裁判官の数を増やしたいから。**
②自分の良心に従って判決をくだせるのが格好いから。

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2022年	10(小5)	学校の勉強(計算漢字) 毎週末プールに行く	塾代
2023年	11(小6)	内部進学のための勉強 (卒業) 色々な知識をえる ための読書	
2024年	12(中1)	筑波大学附属中学校入学 ・運動部に入る	入学金 授業料
2025年	13(中2)	・委員会に参加する	
2026年	14(中3)	・高校進学のための勉強 ・数学と英語をがんばる (卒業)	
2027年	15(高1)	筑波大学附属高校入学 ・運動部に入る	入学金 授業料
2028年	16(高2)	・生徒会活動をする	
2029年	17(高3)	・大学受験のための勉強 (卒業)	
2030年	18(大1)	京都大学 法学部入学 ・法律についてしっかり学ぶ	入学金 学費・生活費
2031年	19(大2)	・人生けいけんを豊かにするため	
2032年	20(大3)	バイトや部活動をする ・法科大学院に入るための勉強	
2033年	21(大4)	・司法試験のための勉強 (卒業)	
2034年	22(法1)	京都大学 大学院 法学 研究科	
2035年	23(法2)	司法試験合格 (卒業)	
2036年	24	司法修習生として入る	生活費
2037年	25	結婚する	結婚式代
2038年	45	裁判官の魅力を伝えながらお仕事を	

※最後の行は、何歳の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう！